

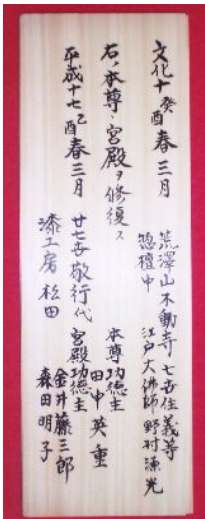
ご本尊様の修理成る

寿楽院のご本尊不動明王は、文化十年に江戸仏師野村源光氏によって、宮殿と共に建立されたもので、法印義等の時である。

この度、建立以来二百年の経過と共に傷みがひどく修理が必要になりました。二百数十万円の費用でこんなに見事になりました。ご本尊様のご加護あらんことを心より祈念申し上げます。 住職



宮殿の墨書からご本尊の制作年月等がはっきりになりました。左記の板片は、あらためて今回の事業を後世に残すため記載して、宮殿の屋根裏へ取り付けたものです。



修理後



修理前



部品の破損等が、かなりありましたが全て修復されました。中一二四センチ、奥行き八六センチ、高さ一九八センチの宮殿です。本尊不動明王、総丈、五六センチ

空海の言葉 シリーズ

良工は、その木を屈せずして

廈を構う

● 優れた大工は、真っ直な木は曲げずに、適材を適所につかって、大きな建物を建てる

日本一の宮大工として有名な西岡常一さんが、こんな話をしておられました。

奈良の法隆寺は檜づくりで、世界最古の木造建築物です。聖徳太子が法隆寺をお建てになったのは六〇七年ですから、もう千三百八十五年もたっているのに、いまだにびくともしません。同じ檜づくりでも、日光東照宮は一六一七年の建物で、建築後、まだ三百七十五年にしかならないのに、もうがたがたで、先年大修理をした。

同じ檜づくりの建物なのに、どうして東照宮より千年も古い時代の建物がしつかりしているのか、調べてみた。

すると、東照宮の柱は真っ直な檜の木、しかも節のないところばかりをつかって、ぜいたくにつくってあった。それにくらべて法隆寺の柱は、山から切り出してきたそのままの、節だらけの檜の木をつかってあったのです。

お大師さんは十五歳のときに、初めて奈良の都へ上られました。おそらく法隆寺へもお参りされたことでしょう。そしてきつと、こんな見事なお堂をお建てになった聖徳太子に、深く畏敬の念を抱かれたに違いありません。

空海のことば より

